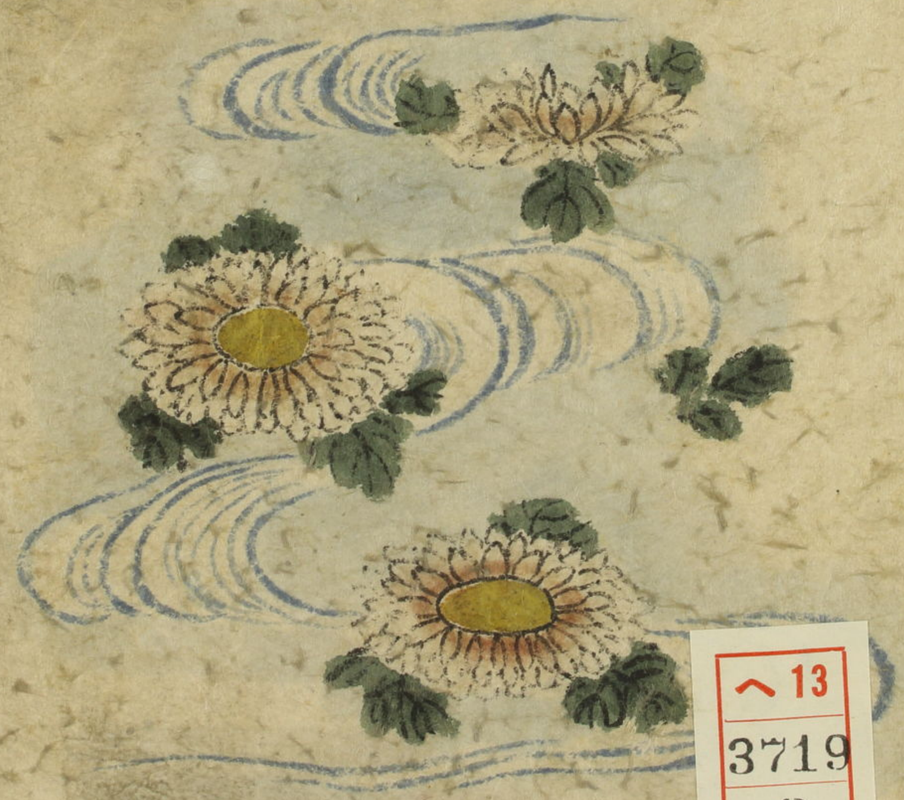
菜壽堂

三



へ13
3719
3

京山作
國貞画
薮寿童
六編上
天保
子
春
新板
栄久
堂梓
行

門へ13
3719
8

菊壽童霞盃

六編 上冊

京山作
國貞画

天保子新板

栄久堂上梓

京 永

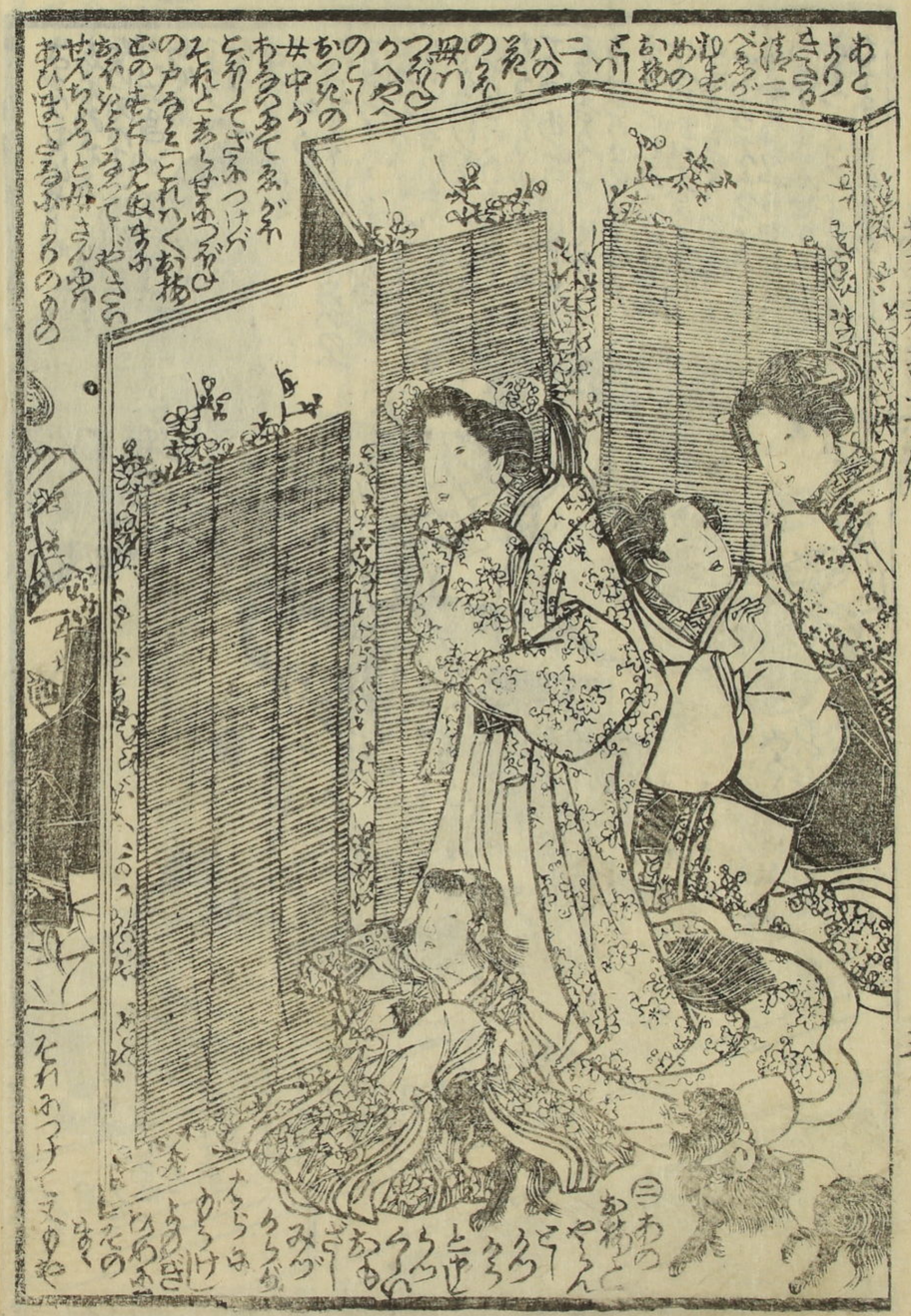
百

今日とありて菊作らふとおのひけもと人口ハ鱠炙
きもとどむ〻二水ゞ句とハ為る人そ為る爲て為る
ゝ〻の学者顔も多ハ人ハ菊の下水学の立庭
もいと沸ればたゞ〻の森ハ啼く児雀の此角とゝ〻
ゝ〻菜壽童ゞ事を作りて菊の葉ハ為て〻る也五ひら
ゝ〻人六ゝ〻七むゝ〻編を作まり数れゞ硯の
水もゝきゝを菊の露ゝ〻でもつきぬやう明日とゝり
ても菊作らふと遠延命をいのるのハあん

天保十一子ノ春　山東菴京山

政子御前
方丈の時

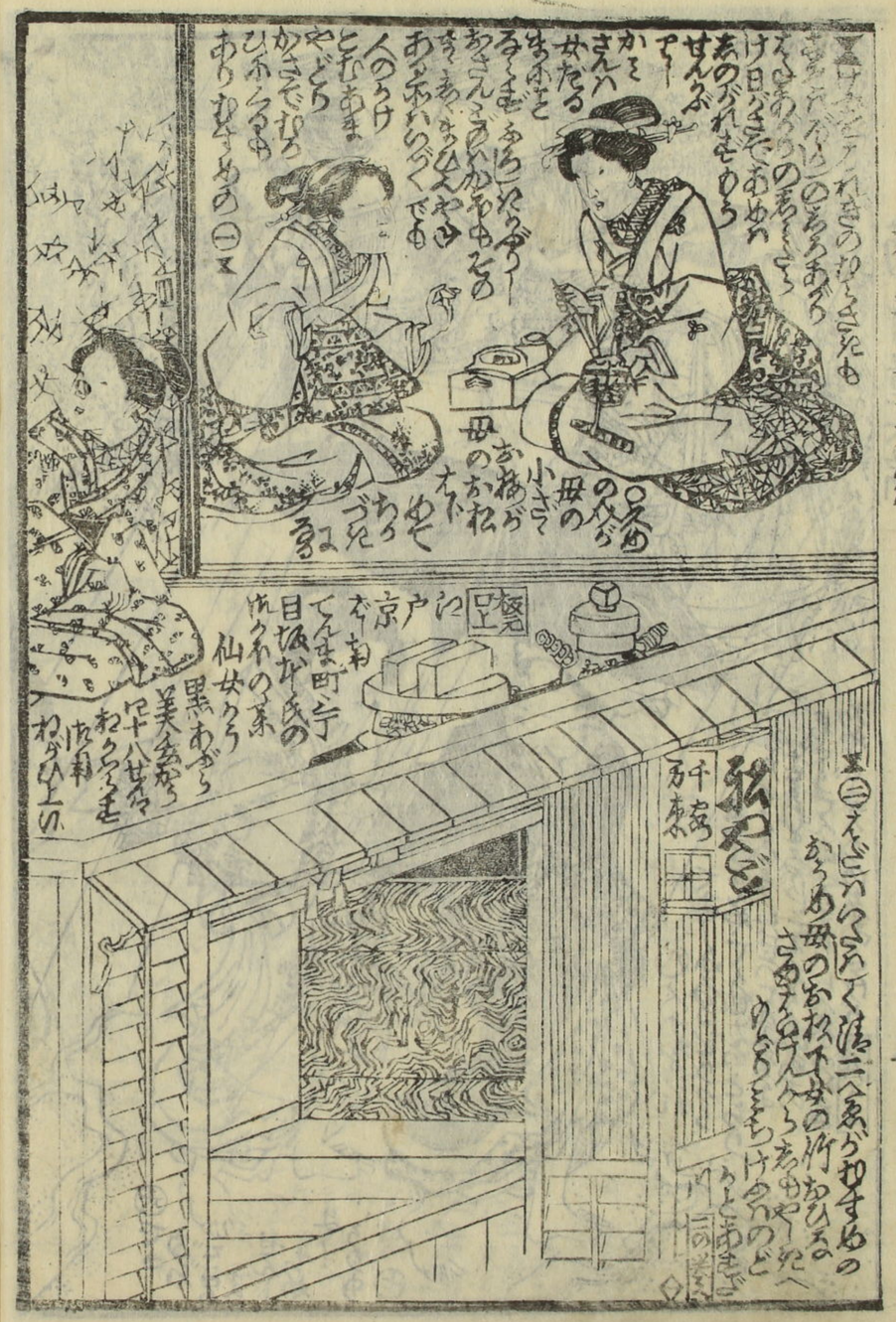
菊寿立異六編
菊寿立異
お梅



お梅

第二 天の雨

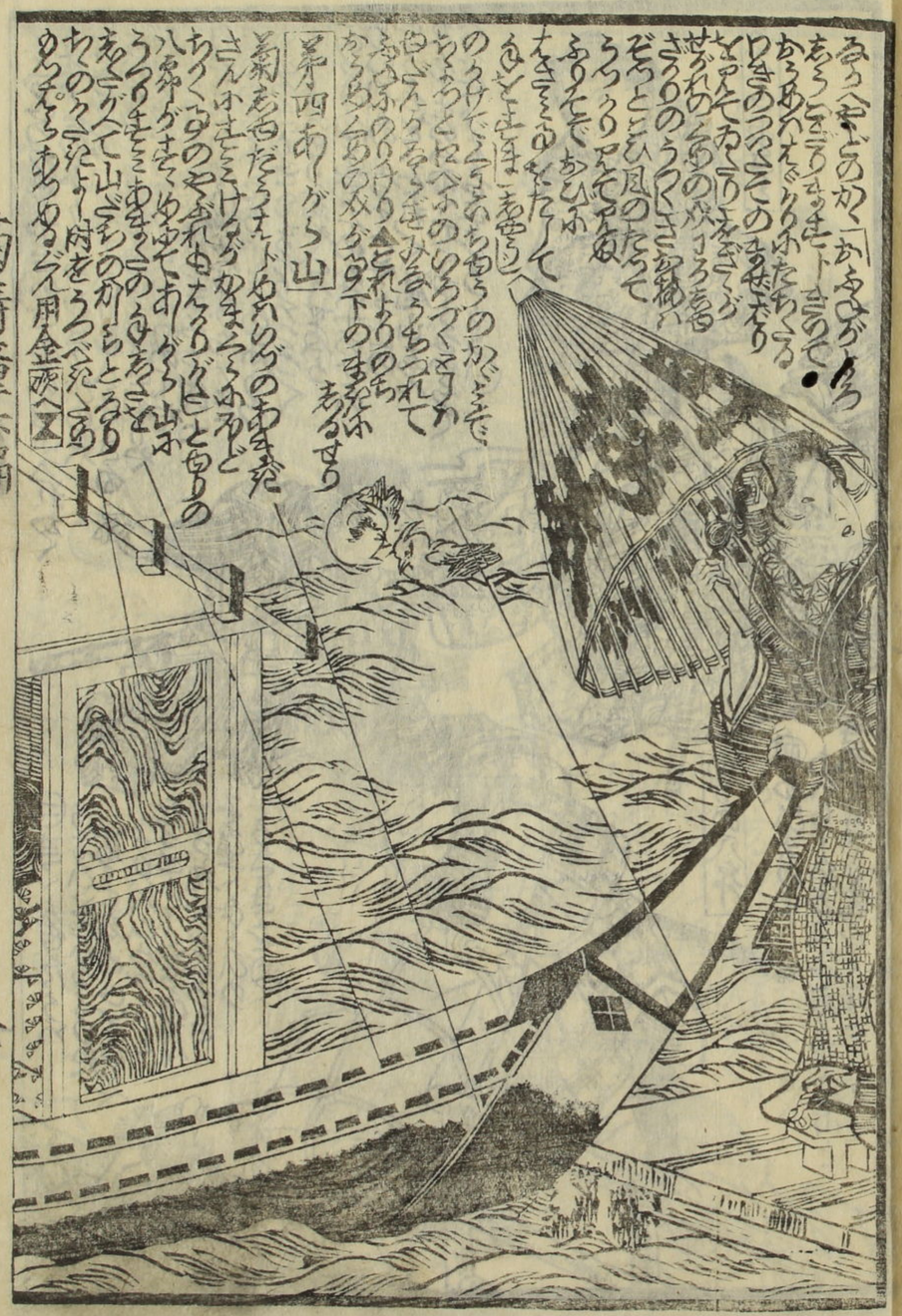
隅田郵便局守護
水神宮
京山人雅井書


弘つぐ
千寿
万寿
江戸
京
南
てんま町
目黒
仙女
黒あぶら
美人
十八女
仙女の系
母の
小さい
母のおれ
めで
ちゃ
ごそ
ひふ
ありがとう
(一)

(二)
(三)

第十三雨のあるぐち

おひとりの
のくせぶれをつれて
ちとも見えトえ今の



あらうへやどのかく「かもひがしら
あらうとこりゃまたーさのて。
ひきのつくさこのまゝだり
とやとそもくりまぶさぶ
せぶれのくものかりろもの
さうのうつくさ家ハ
ぞっとこむ風のたらて
うろうろうとてあ
ふりてぞあひふ
ふきさこのをたーて
ゆとよまこまこ
のうけてうとおちもうのかぐさて
ちちうとにへのいろづくさつか
ゆどくろそこみうちつれて
ふひふのりけり▲これよりのち
からめあの双ぐ下のまをふ
まるすう

第四あーぐら山

菊おゆたうまとあいりぐのあまだ
さんふまとこけぐかまくふろど
ちくゆのやぶれゆたりぐど」とゆりの
八郎ぐさてゆとあーぐら山ふ
うろまとこあまこのゆちさ
をとぐて山ぐちのかちとうり
ちのくこたよ肉をうつべたこあ
ゆうぐそうあるぐ用金次〆

ことぶきのつるとかきらぐさをいのぶふ入れかく
ゑ下このかりくらかさりのかさびの六
たちろうのかやさりのハ弁さる
よのさりをうぐさたりまくこうそりや
下くさをのそりのふかめしやや
ホクでもらくはぬまくろ武士
みやこのれりなろうみちなと
れのをどりさりをもまりへろく
どもよのさりおやぐんせぬう
「のくさ面をそこの武士のせの
めのの「あくるをとやら山の
やうををそれく尾山ちん
たちとのあくぐづくるやらで
ぐんもトさををさりうう㊀

㊁きくだ者たうい
うぐひろくるこのだ
ひあとおとををぐ
よりだひりうこと
たることてこっの月
コろ丸女どもつき
そひてゆぐひの
うぐさきを㊂

㊃あひまり
あいらーだををそのーりを山と
きいてきく者だうけうてく

かのけ「そのを山とをさのう
とうちう入むさ面をさ面を
ゑびうるちのあ者くふをそあん
より時ぐつけとゑひるぐう
うくくいあるつるきの
あことうひようちかあ
よをてきそうぐくびう
うきあとーちう人の
おをおふををく者らの
うくくをもをくくせん八弁
用のつまられトたカ
あうをてくちう
あがれがひとま
のけよう
ゑををくトう
きく者ぐう
をををたるあぐ
このつぐれりできうり
あうぐのさげうぐを
きるで「あ」あう
けんぐうるのくみうこ
むををぐあうま
ちるかれ丸ん
ちかうれ
まむ

ちいさまやまうしやござりませぬ
それよりわたくしがおそれ入るは
八郎がおかみせつけらるあのびんの
打ちさわるかんざしをかけるより
やまいのたねがくやみあら
おきうつるあにさんが

女あんま ちく女

此時のけいせいたま

この／日ころの／あくび／はとみ／八郎／まくら／けさ

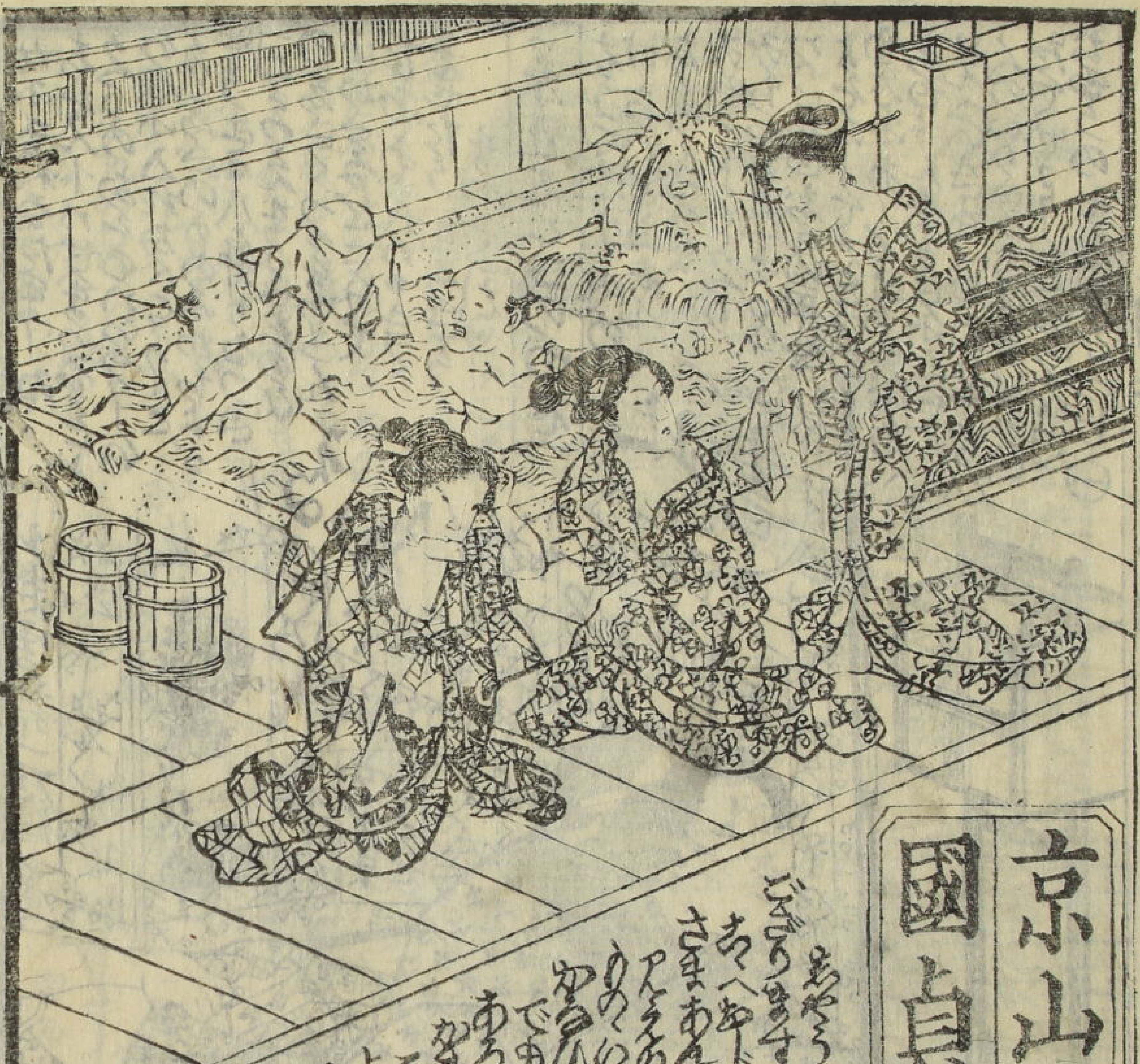
そとやあたさのうへんち
ちゃうひのおかうさえ
尾山が合びをとらえ
多ばなどがうけあひ
やうもきてよもてそう
うちうるつき
「ゑのさまあざまが
すてて
くるを
とりてへびの
たとへあるらが
八郎今その
わざきらめかにふ
ゐころあのひ
よらてちくの
あざ
とび
そって
さるべ
ひきて
びの六八
あんまるは
ドヤこうや
あるぐまの八
これハ八郎が ㊀

あざさんちのさまよく
などもそれハおんどドやがあイ
らてハおちやよぶそそもきてその
こちりあちや六八百や ほべをが
女がら月ころさるあたんどもち
のをわらうおちてがうてて
こまやちーおゑそちらがすみ
らひまでけをおふうふきを
たなうりつきときてうて おちよぶ
をつけーが ほど湯ハあちが
ちくへのあれぬあゑ小のる
とらふ女もふけんまり今でハ
かあのちの田ーまやへふち
ふやらしたーまやの知すぬの
おきらへ白代の続すらと
あんちまりふでき時とりだ
いあさるのおちそだふ
せんとそみずの小ざるが
つまさきとりふとうとも
二ねんぎー此山おさぬ
あきこがあちよが
つぎへ

たのむまドか
てのぬけちち
えりーつけうりびへ
らびそとんへ
きけごうち

骨董集
三編
和漢
和草考
女粧考
京山作

北越雪譜二編
此書
近刻
女あまちとせ



京山作
國貞画

「その女ハいくつぐらゐ
ドや「それハ廿五六のこまさ
ざりなろうさえようなを
ごさりまの？らのせんハ
おのらくでもごさりまは
せう「そのあんまよんで
とんとらわさるかけの
とある「あんまわよろしう
ござりまする「さそちと吾よのところへ
おへおドやたんなこれでござりまする「ゆう
さまあんまゆいをとのよでも
アノく取ろ「その廿九の？つぶれまして
あの？のろ目ハ陽がえそろまとアあるのが
かおひまの世ゆ「そそこあがんや目が？それ
でもそのさうなちうさぶめて男があるで
あろる「ろうんのきア目くらふたまが
かまくれはまちやよ「のやくさうでるいとて
とハ「それと云てるさぶうおしまう
よりかくへうなきかけれハ「りやのむ
ゆへおよおれ備へでは？ろう「たくされ
たべ？の世敵「あり？？くさアの？
ト大きなるちよくとるえもあり
いぞきけのあめでござりますの
ろ「のくさのいぜんハ女であ
？？？？？？？？
あ？？れあれま？
？？？？？？？？り

◯和合
濃艶
御化粧 匂ひ水
一名 雪柳露

大いれ 百五十文
中羽入 百文
小羽入 七十二文
［？］ 百十六文
［？］ 七十二文
［？］ 四十八文

東都弘売所 北新堀大川端町 天満屋平兵衛

此白粉ハ漢の渡製にして三千の宮女帝の寵愛をうけんと？？？？？ 奥宮のあらん
かぎりをつくし此水をもちひてよりいくらか白粉を今日の水を以てねりし白粉を
のべてよくぬりしにハかのびざるにくらべハきめこまかに？？？？？
にほひのあぶらをきりいでし？？？？？？？？？？？？？
に方八此ほかにふりてよし○此白粉を？？？？？？？？
きりかたり二十日ほども？？？？？？？？？？？？
ら能ハへバおしろい白をきり？？？？？？？？？？？
此白そこなひをきよめるハバ清浄にしてよし○此白粉をつけて
○？？？？？？？？？？？？水あまさありといへども
？？？？？？？？？？？？？？？？？？？？？
のあせをまげ？？？？？？？？？？？？？？？
精をあつく製法？？？？？？？私傳来の秘法にして？？の
おうえあり水？？？？？？？？？？？？？？？？
？？きのまに水あり？？？？？？？？？？？？？？

菊畫城童霞盃

六編下冊

山東菴作

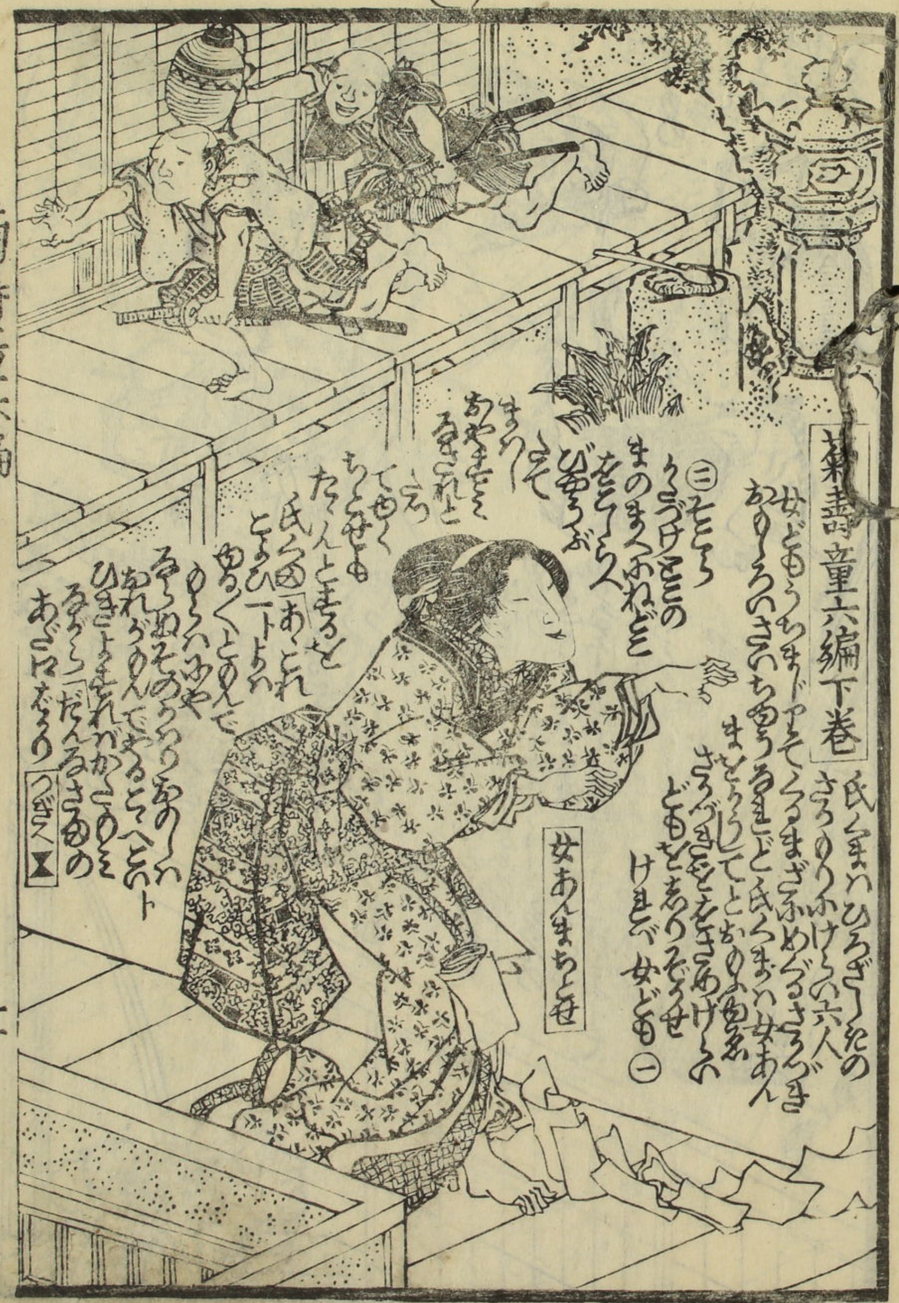
菊壽童六編下冊

立渡亭南

栄久堂

樣

天保十一子春



氏る

氏る
八幡

▼あまたのかまくらくひっぱってうの
そのをひっぱってもくーやうさまん
それまでいそちさちはあぶくるぞ
さりはぐそたるーのひつけられかーと
まつさきひつそられねんの
ふ弟ふとのーのてきろをぞろと
ふとてさえをものぞさを
ひれるくひの肉そふのんるる

▲氏くまいト女ふのひつけ
女あしはのちとせとよびよせ
「さそひつてあそあつ
くせものいくしあけたぐ
ちくうぐでもあるぬいおの」
さそうーやくトよりそえへ
ちとせいふことうちるをこ
つ「のやーのめをそれかど
のおとろおられちうぐぎん
まるるるひくひう「あの「たま
らぬうトひぐたつくるぐそう
らさとかてさうるのけん
目いたうちろとあせ目くう
ぐうまりされあてんだうこう
きうまよのふうぐふとあたもも
むのんのそうこかぐくくちとせの
のとぐりうのつこくひをぐうく
とかたあとあうりぐぎうちう
うるうぐたあうーのうちるぐ

(二)だうさう
二ふふ
うれけり
又
ぐんぐ
「れさ
その此
たそ
あまぐでも
よのわさ
だんるれ
あやしこ
わこぐであう
とうくぬ
そやうまど
ひろげふ
たぐひとか
又あとろ
ゆきひとう
「あの、
あうりた
あけうこ下
かりーーー
ぐ
ぐ
ぐ
ぐ
ぐ
ぐ
ぐ

尾山ぐのんのふにしきかにしがとく
てふりすびアてあのうろうこうぞんすまの
うぞひどりまをたくまめあげくるへけん
ぬぐひてさあふきかををとこえおし
られてあーこあくちさらんとうす
けりぐうちうこつのてあのどり氏くまぐ
あまくぐうづくその太刀をうぐひてわ
あつりとおのふそたあうくとこちさる
ごころへ氏くまぐけらの「ぐえるさあかま
くうかくあつくひぐまあくきーさトうつく
きたるるぐくらうこまあつもや
さのせんの女あしまト
こあるけられてぬき
うちふ(一)

ひとこあ
目とまわー
たされる
女ぐあしのえく
をりちーそを
ぬぐぐまのかち
きぐあるるとが
ちくんくくく

▲あるん人は女ぐを
神年ぐたくーとり

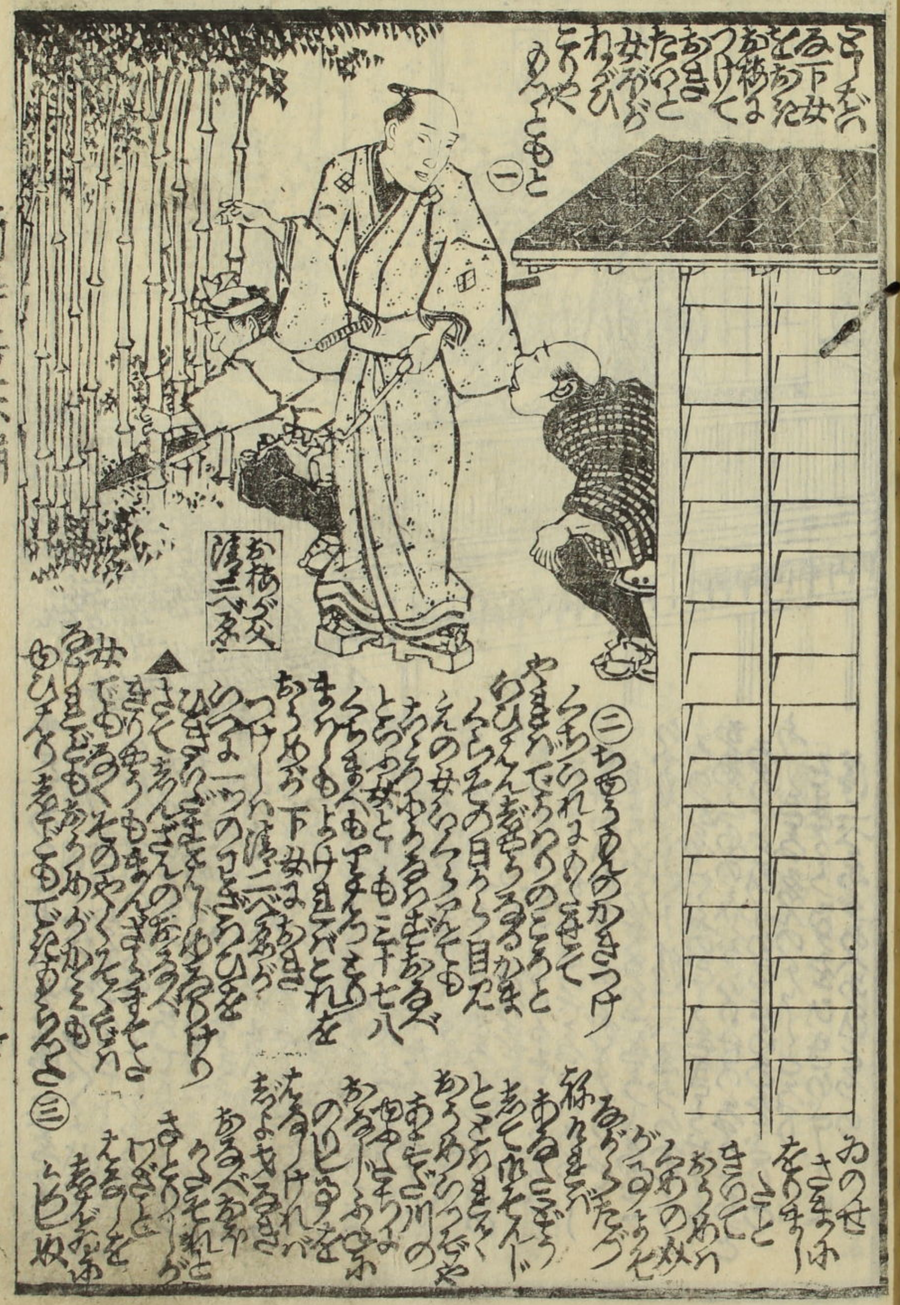
第二つぢだう
のたうり切

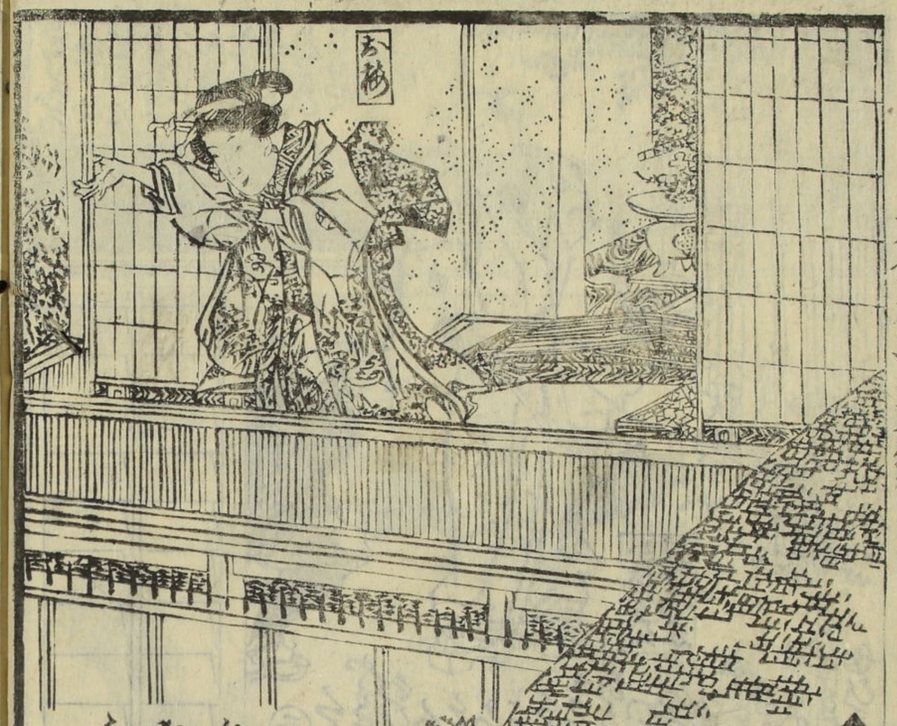
あるーどのかりよ
れふくぐをとぐ
ふうくるるのかり
どやくきとあ
水のあとあもけ
うとうるまるせが
たうだうりも
きにぐそまうるき
ゆりのんらりのたきうを
きことえ刀をつるうとう
ようてあんかぐうとと

つぎス

第三のせの汁やぶ
○よう時のけらの
そば新清二つ
せど丸
清十本
のりと
お梅

下女
あるじ


あるじ
清三郎



さてある日ゆいつら清二べゑうとえ
きたり「のーだんなちゑくよひあるも
やーきのあるそるみんとてよりー時さも
のあくさるのあのびとくあるのの
あるみのまあるうらいできるーうぶ
あちやぶのひとのうきねあてしく
ちうくさらうるまるまるいりくるる
あのまうでもあれまいりいてて
うかうるのちとまるうのいやく
りくうもあるやぶきてうやれ「ふの
えいトやうんとまうるをりやまてよ
あるまうらしろのやぶのとくぎ
きうてつくりそうやだんるをーん
ものびどぎうまるーさうとうる
竹のみぶぐんいこうやーきの
ふどもらぶるうをやぶって
たけのうをとり目ぶげるそれゆまうさ
みるくまをうまきいでるういあうー
やぶかいありーやぶとまうてて
ほううはたるるいやあうーぶあと
ふあのーやトぶ清二べ名ぶらんのうー
ろのあるやぶのとくぶきうせーぶ
あるんあのやぶうりせのるうぶちと
るうてとりーのひとゆあをくうのの
うぶるみ名んのうーとうり
そまうくうるをひきりぶーく
清二べるぶらんゆひとうの

あるさいぎぞいぐきかける

第四心のかよのふ恋ごとふえ

竹やぶをきうくるあくるる日
おうめ下女のおるぐふかくとのうせ
うくーくけまあうーけまるぶひさ
あうとをさくうふぬと母ふりうきを
二くのあて江のまををひきけるふ
とるいようーことのあくの㊀

「ヤアくあの女さんらトひとさいも人のみくされころ
やぶの目のきくふ
おりもおよろぬ
おりもの人
うまくさ
あまくて
ゆるこり
こうへんが
わるもの
ころ
こうへ(一)

(六)なすびつけて
ゑ
クヽ
とれとは
めとして
たゞひは
かゝひゝが
かゝのべた
さいも
ゑくて
おりもの
ふちせホ
のこゝて
こゞ見こける
つぎへス

ムさ系
へび太系

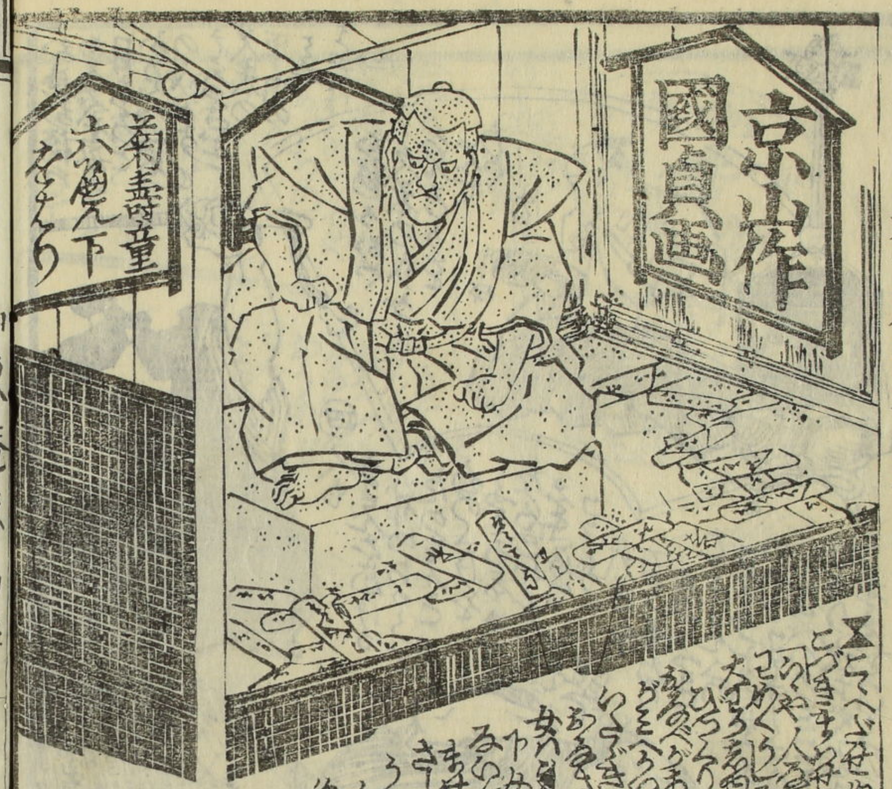
(二)
ゑ
かゝつきあひ
つきたんぎくを
そりて
こゝき
ろうへかゞこれ
ろうるかげ
ゑまゑ(三)

(四)アゝるとこれはされどとこ
ろゝろぎ」トさんあゞ
きゝろあんゑろのうくを
うきかんぎゝふわすび
つけてゑはくまゞらあの
女さりあげゝてこれも
たんざくわおんさろを
ろうとゝうんともたのも
まゞもあくぬせたゞの
つくきへゞそれ一ト
あるゞきゝうあんゑろの
うくとゝろきりんろわ(五)

○せうぐゝ
きぬハ
(四)

○お梅が
下女
おるべ

久米の丞が母
あ梅が
かんざしとそでをあやしむ
あ梅ぐ下女おろべ
へび太郎
きぬ八



とてへぐせぬきびとめトなるべらきらくて
こづきまちぬび「ヨヨ」とうるうしやもづうあらうせ
「らやんうるうでも山るうでもかるうのけもみまんぐとの
ことめくらうろのうくそあのけもみまんぐとの
大ろうる「ひうや町人五ちうけとれ」さるハ
ひうとり「ひうやあるまるめが」ひうさうけとうハ
あるべうあてなるこんくくとこのやさるる
ぐこへうつうけとりあるべゆこるへあり
いうづき「へび大弟さるあるひもうるぬ
あるうけ「ぬこのもハかとるるうや町人この
女ハ人ともこれるうるうるうのれぬりの、
トかぬびうひうけうるうるうるうるうん
るのうらやもるるめうさるやるれいるうう
ません「ひうひんるうるうこれかうトこうお
きうるおちあうこうちるるくと
うちもるるつ「ひうるあるもるけの下女
人るうるうるぬもへうるだうりるるるるるの
めトれるつけうるるるるるるるるるるるの
ニッミッひうちうるうるうるうるうるハ
うるうるるるるるるるるるるるるるるる
んあうるもかうるるるるるるるるるるる
かへてるるるうるけり
大金ニひづるきるるるるるるるるるるる
うるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
どうんるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる

菊寿童六編五 全四冊 山東庵京山作 香蝶楼国貞画

東海道五十三驛 二編 全四冊 鶴屋南北作 勇斎国芳画

仙女香七変化粧 全四冊 三亭春馬作 香蝶楼国貞画

隅田川月姿見 全六冊 式亭小三馬作 香蝶楼国貞画

若紫東顔見世 全六冊 五柳亭徳升作 香蝶楼国貞画

時花歌春連彈 全四冊 美圖垣笑顔作 五雲亭貞秀画

萬年紙亀聞書 全四冊 仙果作 五雲亭貞秀画

菊花時絵文箱 全六冊 三亭春馬作 香蝶楼国貞画

美艶仙女香 一包四十八せん 黒油美女香 江戸京橋菊屋通り二丁目 坂本氏製

錦絵問屋 江戸ト町親仁橋角 栄久堂 山本平吉版

京山作
國貞画
菊壽童七編上巻
天保十二
丑春
山本平吉版

菊壽童
霞盃七編上巻

京山作
國貞画
栄久堂梓

菊壽童霞盃七編上冊

菊壽童かすみの盃初編天保二年卯の春の新刻児曹の玩冊とせゝふ亂菊ののとゝよ遊ぶ狐福の幸を得てあくまでの筆紙採るふいとれり他の作家にあらぬ己れ冊子と幾編ふ作らんとのおりしもまうけぞ書肆がのとゝろふまるせそ錫の如くふ援延も児曹に賢さるものゝれがへさまゝば板行の櫻木ふ筆の軸ふ竹を継ぐるもいとあり〳〵児曹ふれを恕〳〵ゑへとのふ

江戸京橋南街　山東庵京山題

天保十一子仲春脱稿
初冬上梓

書肆　栄久堂蔵兒

丑靜
且末

○お梅ゞ
母お松

○仁丹の四郎
たゞつのけゝ
わの世のてを左ちゞ

○さう上
より時の
けゝの
花柳
清二へ系ゞ
娘
お梅

○お梅ゞ
下女
おきゝ

せゞ丞条の外
みゝ子

○より時ゞ
けゝの
弟系
へび
太郎

菊寿童七編
下女
へびを手に

武士らしいあのやうなぶ
こうれはなんぞやとうかうかうでぶ
ぶぶーとはいらうでーぶぶい
まるのとかのこうぶぶくこうろぶ
そのそもしも　ぶぶがあるん
たちくの「のーぶぶるん今の
あぶミニあぶまけまもぬ
まう百足ふらあけませう
とやりますふらうふつの
そこまでふるぶとして
ふうぶたりけぶくめとれ
ふうぶくふくふくふ人ふい「百も
あやうちぶぶぶります
「ふのんぶぶやけふいまあれ
トいでふくなふぶかゆとを
ふちふりてふうめぶくふの平
内ふふけのふふとあふふふち
ふぶぶふふとふふふふぶ
「これをへイトのふふふゆて
ひとりふうふふちゃ屋の
女ふのりふえどきぶへ
「ハッでもぶぶりまふう
ふちゃくふきふあそく
ふくぶトちょとふふり
ふふうぶけ　ちゃ屋の
女「のふちゃ
代と「不いい
ときふいまふう

武蔵屋口上　江戸角てんま町三丁目
板なかやそ　ゆふネの
ふまり仙女ふう
黒油ふふふふう
ピナ八せんて
ふふふふもも
ふ菊ねぐひ
上ふ

第二分　物のはきぶのつくふ

ふふ
ふふ
ふふ

お房
お松

清一
べく

二の巻

二の巻

ひとり弁

おうめが母
その二

六樹
八びろ弁
つぎ八文

へびたち
か柿ゞ冊

久米の丞

お松

栄久堂梓行新舊稗史目録

増補忠臣蔵　全六冊　晋米齋玉粒編　一陽齋前豊國画

繪本千年山　全拾冊　北尾重政画

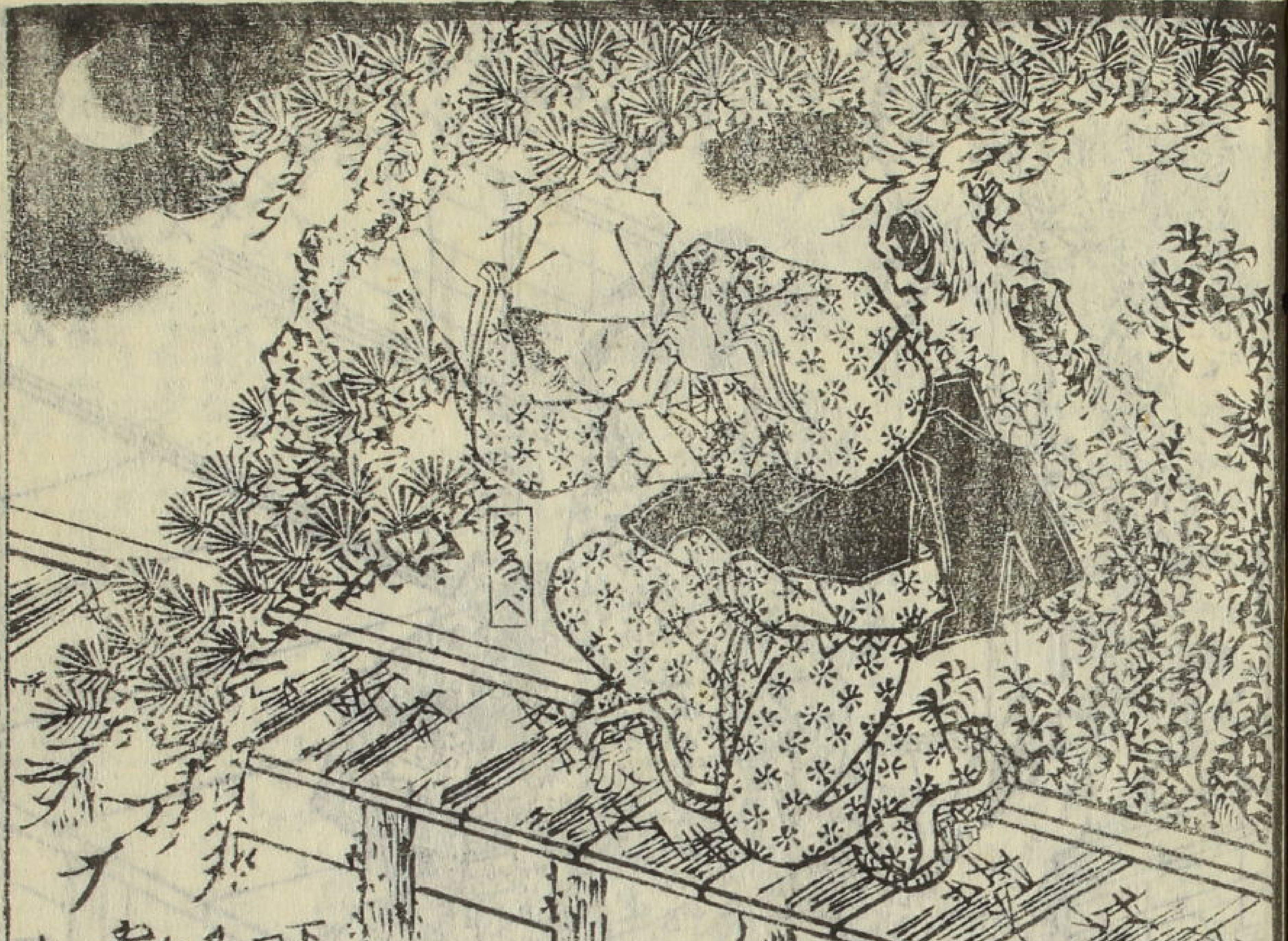
繪本武者鑑　全六冊　十返舍一九作　香蝶樓國貞画

花軍春錦繪　前篇六冊　後篇四冊　十返舍一九作　香蝶樓國貞画

昔舊在多土佐　全四冊　宝田千町選　歌川國芳画

江戸より町親仁橋角
地本錦繪問屋　山本平吉販

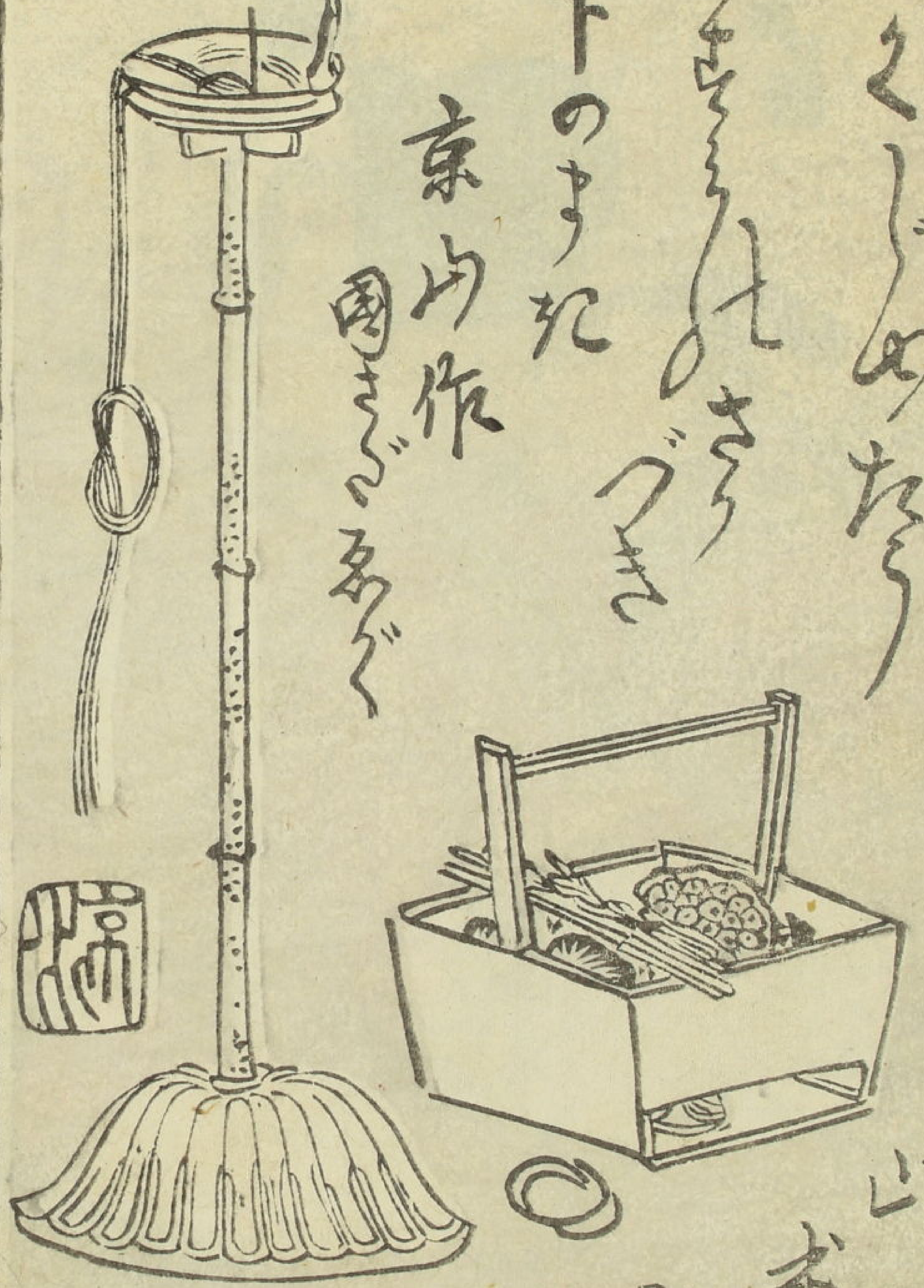
京山新作
国貞画
七編目
宗久堂板



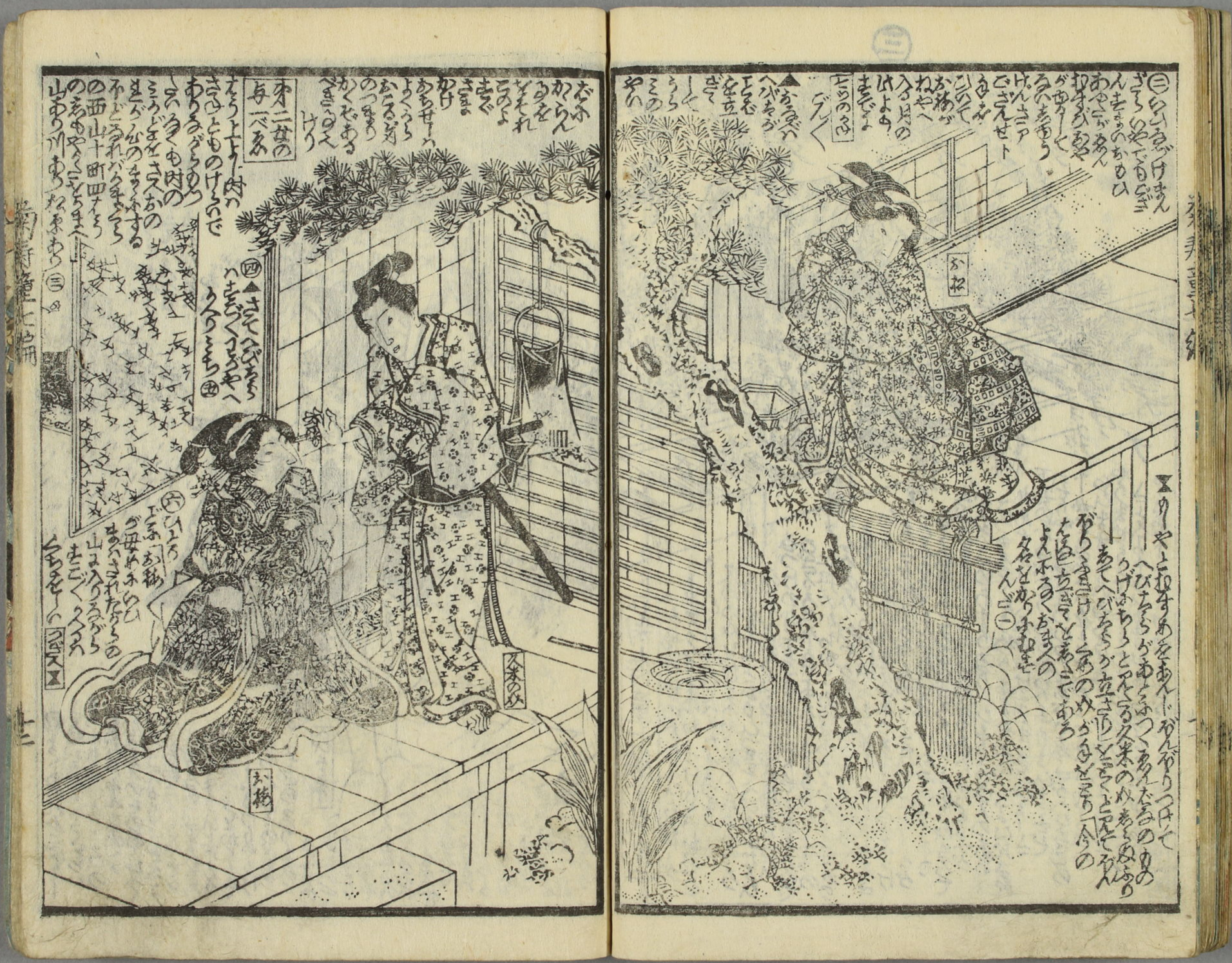
菊壽童七編下巻第一

お梅が母のお松へびやうきが
よこてくるまのおつけつぎさお梅を
かくまひうけられてへんたいまつてまへ」が
久めの父をむこ家へかやとおのふところ
あまお家ふとおのふつきをへびたたむなどし
「のちぞどおのむ梨ともお梅めの母
うけのむこにござんせ「そりや又あふれので
ござるる「私くでもつてござりやしきの
仁丹のかちあう ねのせのやしきあるがれの
ふめのか「のやがんが何か〳〵「ゆくく
あるたことのふ代にふさんをくにへさがあさ
いそ久米の父を久米の草内へ合てんさけ
あくておたしうるあゆうこ武士とぶつしとが
とあをつづくえとこのひろづけおやのまてゆき
ろくぬあるこのあれさるそらとおのむきるて
ござさてとトかどのされてるあへさるもすが
かあへさのあまりさうへひさうへるんのあれ
云ゆあくおうやが、ふきをむんくよひ死さき
抱めてたくるへゐげつけ「これ一処なました
下女のあろべおちめがかわりのかりやしまぞ
司そりやこゞきえのむつてあぞこのあくさがへひたぞの
下女をきるさこれをとてやとよへさ二私をうひれ
のひますまのるなるおあくあまおれのやとまのそ
あり分せうなうやそのえおたおあるるとこやら
こさえよものひますおぞや「私でそるるのあり
やさ爲トたてけこてゐでさくおまつて〔つぎへ〕

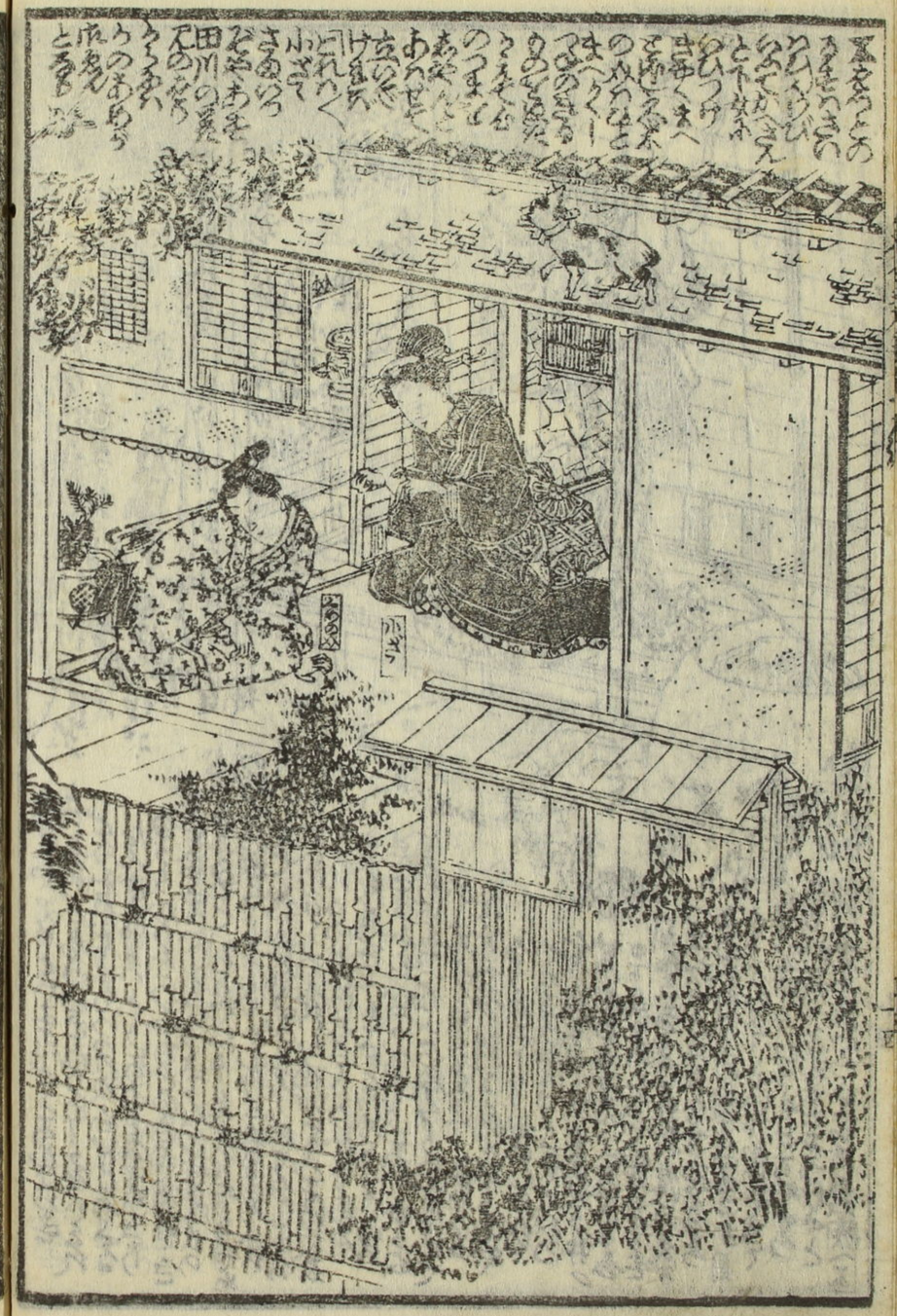
きくじゆだう
このまれさらづき
下のまき
京山作
国さだゑがく

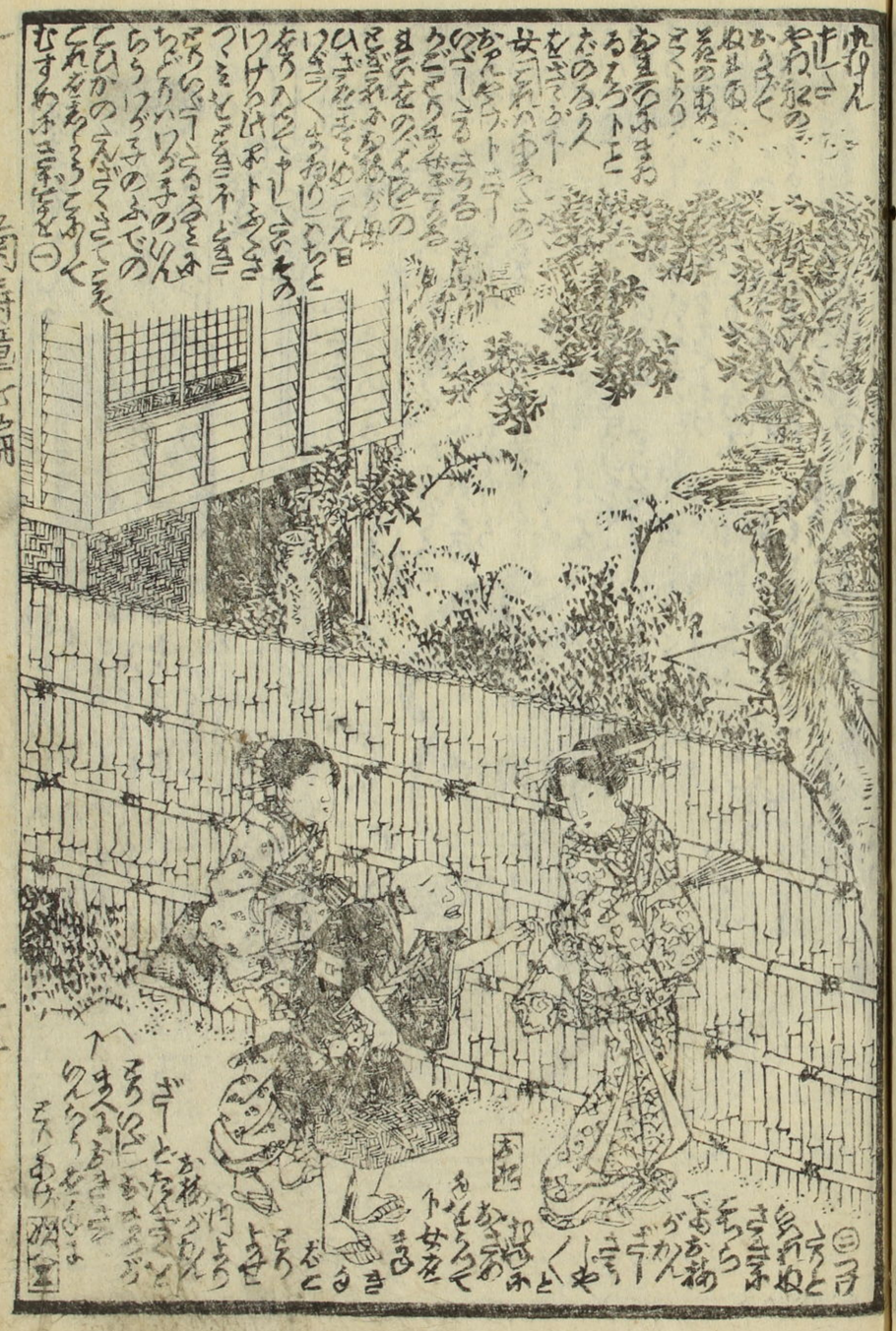


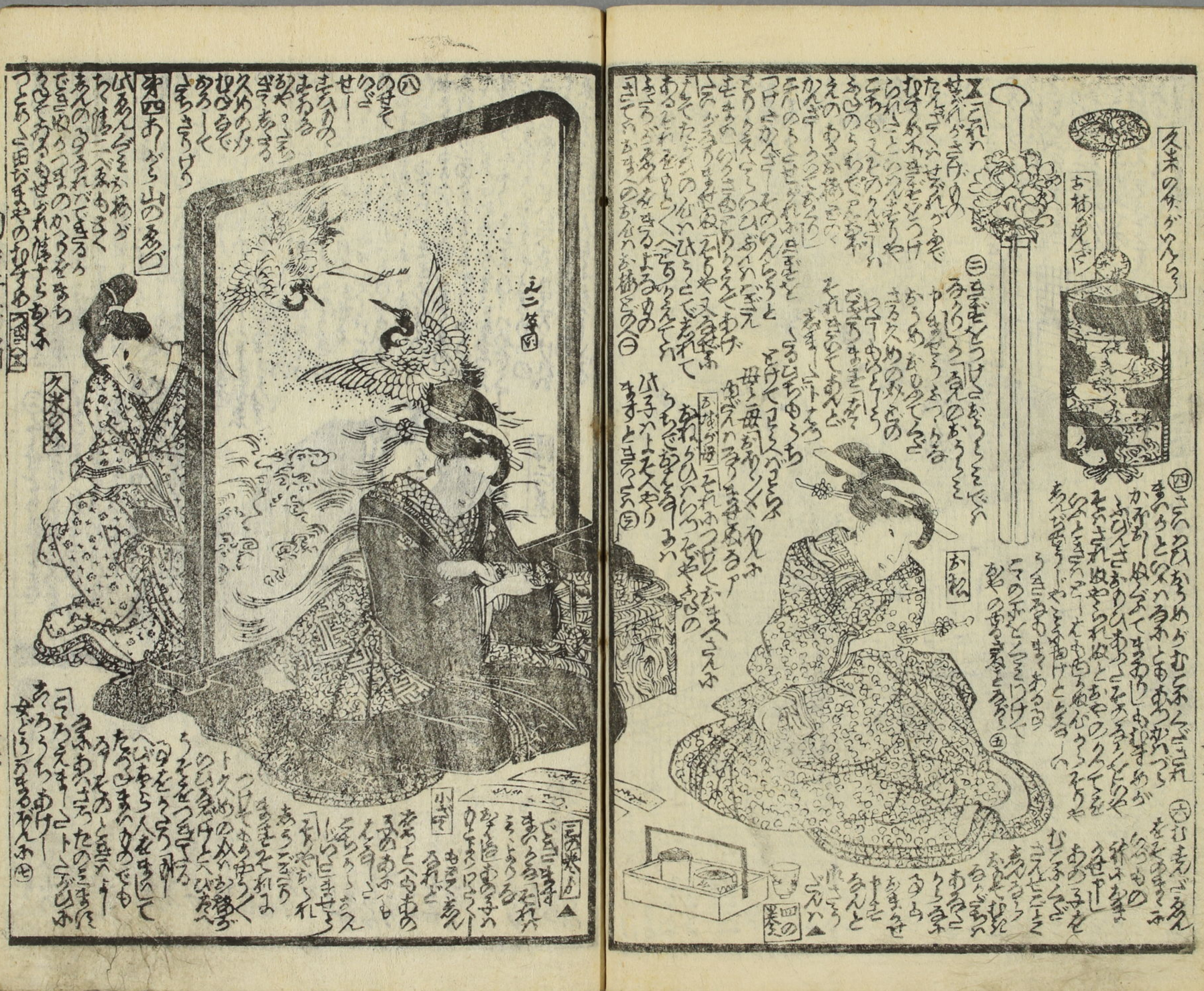
山 求販


ふね
ぐしく
久米のめ
お稲

ひとりぶたさかる松






久米のあげくんろう
お松
お松
四の巻

第四 あげく山のあげく
久米の丞
小さん
三笑亭

玄猪
ひちりき

久米の丞

久米の丞
玄蕃

お松
源二郎

久米の丞
八びき丞

京山作
國貞画

大人 小児 よい きん人 長寿 ちゑ 仙やく

十二味 きくとうあつひとまわ あやうえん
一袋百二十二せん 第一のろを白くし
きめをとをくふは一袋ちひてかんを
玉のごとし 風ふきあるへ白牡丹百十四せん
ちゑ 上のつけ極上のかろへ おもひ人大極
上あろへ雲のうへ六十四せん おくぬきうの
ろへけ やうう五十六せん 丹一袋五文 まき二袋六文
女月やくうろ丸 男大ぜんやくうろ丸 丹一袋五文 まき二袋六文
らふ ちもとのでくとも ちのなりこ ひきへの
でくなさるゆ色 本のん さうそとふ補
久米の久へびちらうえきうとこ五人のやう
なをきうふせうこうとちゑまんのへ画ふ
ちうそらふ ちるさうばふうふうり白きえ又
四へふらびさう菊ちゑ白ちうとて白きく
ちがうゆ五へんふらびさるふらるはへ ちゑ
清十ちうがゆ ちゑ八へん九へふ ちゑ一ちゑ
うりへうびゆんひ ちゑ 仏ち八へこれぎう
めでうくく

菊寿童七編下終

栄久堂梓行新舊稗史目録

菊寿童霞盃 初編ヨリ七編迄 山東庵京山作 香蝶楼國貞画

東海道五十三驛 初編ヨリ三編迄 鶴屋南北作 歌川國芳画

三國志画傳 初編ヨリ十編迄 十返舎一九作 歌川國安画

加々見山旧錦繪 全六冊 墨川亭雪麿作 歌川豊國画

國姓爺合戰 全六冊 墨川亭雪麿作 歌川國虎画

御誂染遠山鹿子 六編揃 柳亭種彦作 香蝶楼國貞画

ねり角の某美艶仙女香一包 四十八組 あくりの黒油美全香 そめ色もち 江戸京橋南傳馬町三丁目坂本氏

栄久堂 江戸より一町親仁橋角 山本平吉販

菊壽童人編上

京山作

國貞画

寅春新板

山本平吉蔵版

菊壽童覆盃

八編上壬寅春新板

本舗荷賜顧光寵稗史購求貴客日晟一日非大方之吹噓曷克至此洪造難名感佩滿意哉方今所刻菊壽童覆盃第八編実出京山翁之瑤筐蓋因前帙好評嗣出至于茲雖瑣々野冊拳安飯真道童蒙竹馬之餘採菜之暇一披繙辱高愛是祈唯供児曹之覧豈期君子之閲是所稗史之分也　書肆　栄久堂　肅識

山東菴京山作
香蝶樓國貞画

天保十三年壬寅新板　同辛丑夏五月稿本初冬上梓

菊壽童第八編 発端

おさろ
おさろ
久米の丞

お梅
久米の丞

第二段
あらろ

おかめ
久米の丞
さんだいのにめ

かうらん
ち栗

かるいん

古種

かうらん
久米の丞

お梅ぶかんざし
えびの上ぬ
京げの武士と

栄久堂梓行新舊稗史目録

増補忠臣藏 全六冊 晋米齋玉粒編 一陽齋前豊國画

繪本千年山 全拾冊 北尾重政画

繪本武者鑑 全六冊 十返舍一九作 香蝶樓國貞画

花軍春錦繪 前篇六冊 後篇四冊 十返舍一九作 香蝶樓國貞画

昔舊在多土佐 全四冊 宝田千町選 歌川國芳画

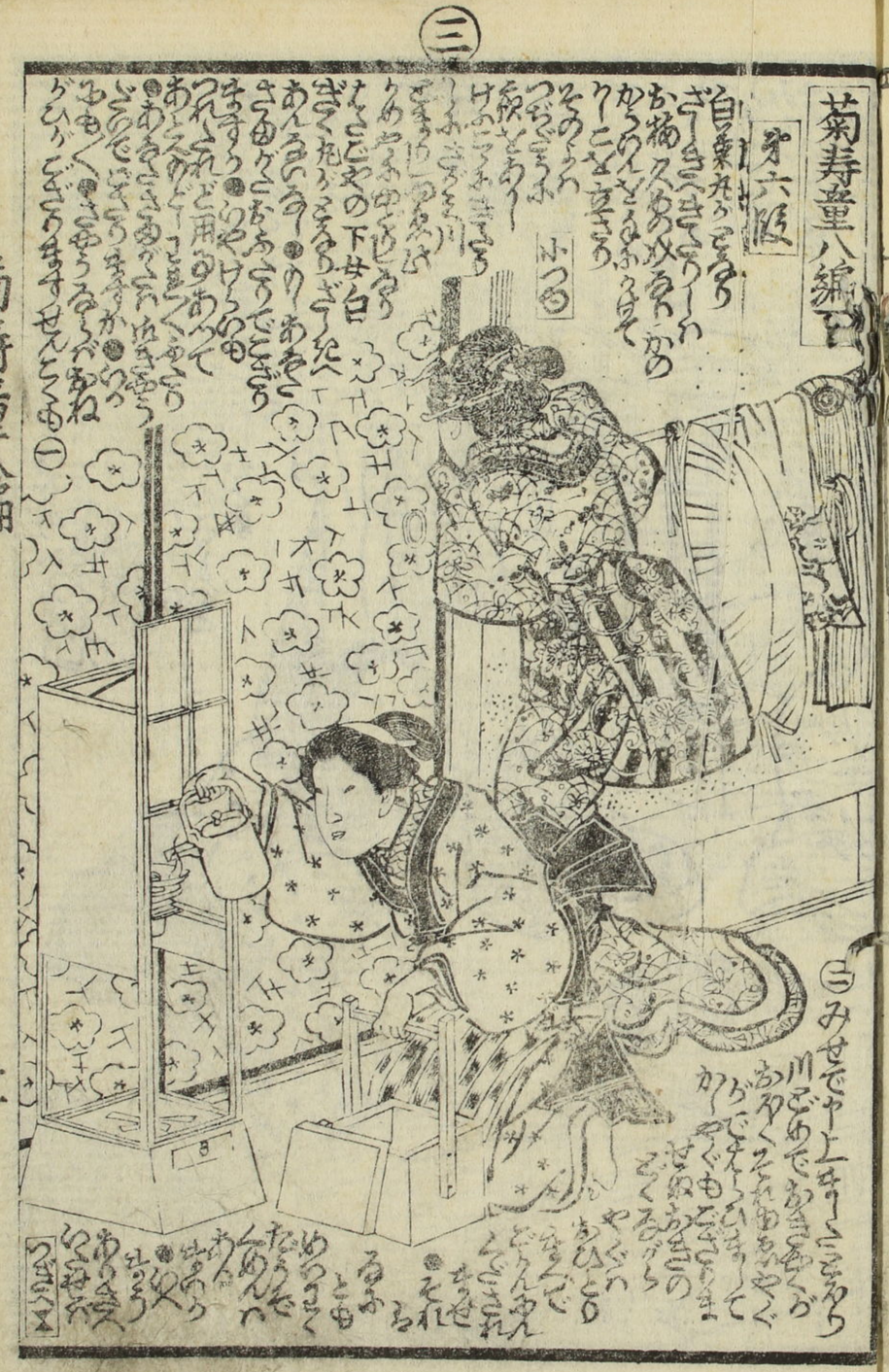
〆 地本錦繪問屋 浅草町親仁橋角 山本平吉販

菊寿
下
芝山町
本川

京山作
國貞画

菊寿童八編下

栄久堂梓



▼れんりいやきせるのかふてりのかふてりさえもはきあらさのやぐい一つでは[illegible]るされまつ●人のこもあれ川とあるまがりつまでとも[illegible]●さてそれもあるせんとくこせでさてこどもかとりりやりまつ[illegible]とのやうでもよいとあつあるりまつと一ぜさてまて久めのゆせんとこるくてくあるけつ○ふつのいとのてのをさてのぞき●やし白ぎくさあ

●のくさあまつたびいつひくろくやまくるるりのもとめそちくきふるるゆもあるふまい●まゃあのあ女中さんごらんるさんせうつまのしぜさえせあくとのそのさふかりのどろされが●のくさああるのくまくろのふりぞくようある人のひすめのしまろくろとこまそきもくふくあ

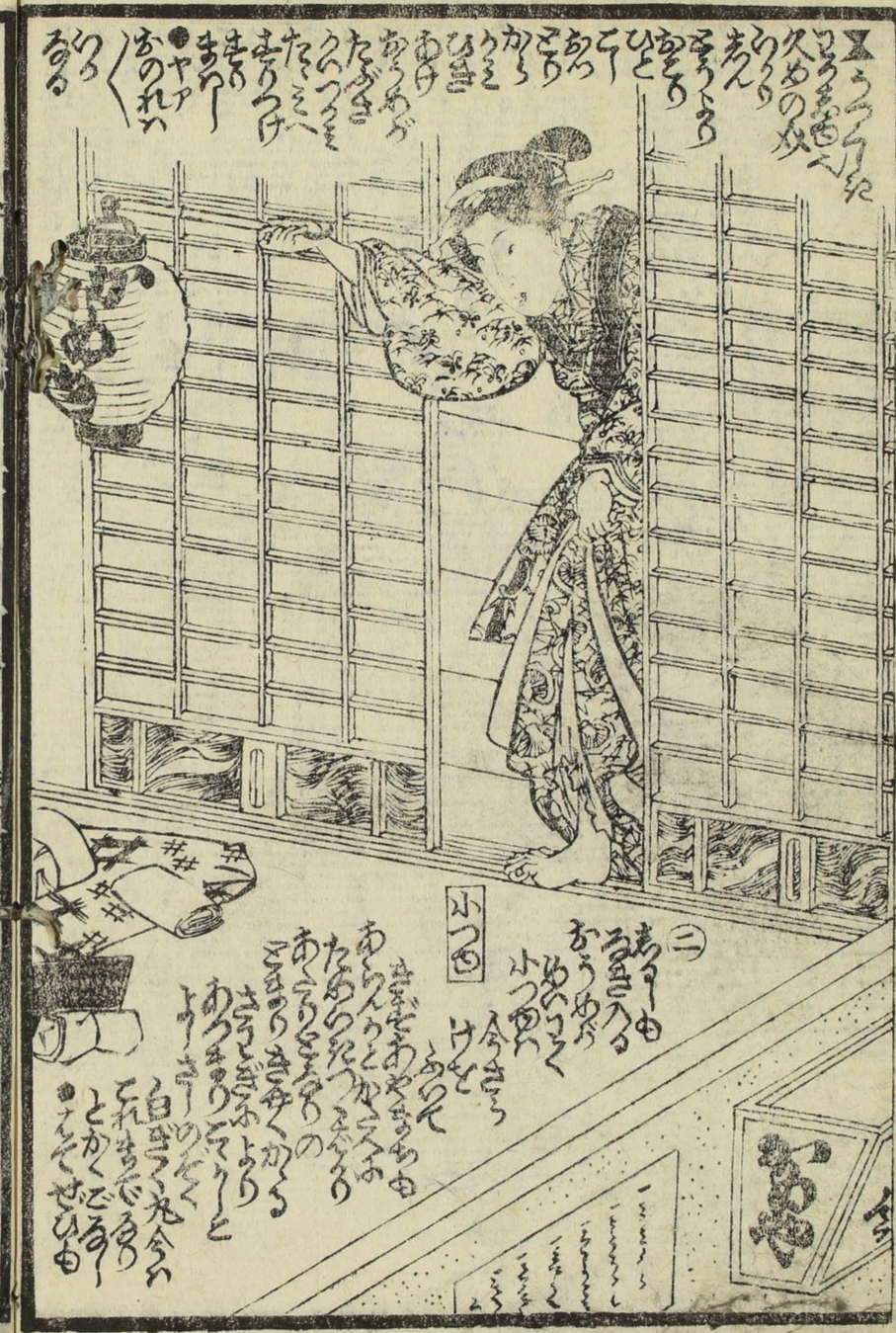
女どろとまろまてろ○あら菊ふくりれ川ごあるそのそや二三日ひりめやふあのをさめくとこのやどのひすめのすやるるぶふつあとくろやまくるりしあるまろぐもむぐさくふくりとうしちんさげてきくり●やしふつあさあたびりせぎの上るりとまま決へ

▼あるもきちのえんとこやで
かくうまを母さんもまおうまを
あるくこもおらいでるきされまを
ぬうときいてふつる●う
まわりまをせろう●そ
やとの母もゆれる
ろう●さゝく
なのでるさと
まをとうち
つれていて見
けり●あとい
ちろぐさてたで
ひとりかーチもよこ
あきやく肉ろうーまとども
小つるハくらぐをおるうどう
あそのさうろーまこるーも
らひきふるう白きてた
もあんごんをひもう
ぶのそとえいど
大小とまこちりえ
ひきつけ一ッとふろう
わるやくひきうがてれより
けり○ちふまこるりざたい
ちろめとるあの女まくるろ
べてうちふけるがあ稲ふと
目をさまり小用ふるんとそ用ふふ
ちきてるあんでしのひとの小てうちんをとれば

よひれをりーこいかうえくもれまこーや
ひきけはえうこるくうまこるうのらこう
ぐこひの小用でよろーこちうこりあるす
ぐりのこあ母しとあけあんこえの
ありまこうひまうぶもちうず
大小もまこーこのとよるるふあん
ぐえのきうえかくらいえくこぐそのう
るるれがきこう菊もが
ちうちえのりこるもをえあ
のえのかどちびひえのう
こうもうびとこうり
うけこ二ッのよぐこふえこうそ
あけりいとまきちーぶて
九い者ぐーまあーてきこう
ぐこうけうこかくてきこうあ
きこうこ菊よくれへり
こうちれまあくるも
へそこうり大ちのぐ
こうきえこるをも
きこーぐこうけりかう
そりーもこふつる
こうめやとあくりた
こるぶこうてうちう
さけてこちこうり
ぐーをれふんそ
これがあこういきえ
てきこうこぐうり㊀

㊁びきうぶひき
あけてアまこえ
らのちふまこぐうん
こえこるりひ
こうこるる白ぎこ
九ふそひふて
こるる女あり
てきちんふ
ようくく
ねこうを
まこえ
こうり
こうきの
りすあるう
こうこうは
あひまこそ
ありこれを
アるとこう

京山著述近刻
女粧考
全五巻
京傳遺稿
京山補修
董集三編
和漢印章
考古図録
白菊丸


小つぬ

白菊丸
宮地

白菊丸
小一西
四の巻人

四
久米の丞
あ福
五の巻人

久米之丞
白菊丸

たびの用いぬすこをのすすーやふあっすこくとんべんらされよ●りらきぬひとくるりへのつともとともやスべきゞ仁奴ゞをゆんのねもあまべ身ども一人のたっらひゆそやろゞゆやらすゞビざえゞのあひゞるへ目どうけあくゞりりのめんぜんゆそゃひらきをるゆ●ごまゆ人ごゆものかくゆものくまくらのゞとゞくと

たびの仁奴

お梅

あるられよ●らまもくとそ久めの奴あ梅もるるくるらふかりてひる是ゆきけり

才七郎

けとうもまそふゞビとうどうさゞこ川ゞのるこのゞとよゞ身ふあゞあきのさこゞすこうこ川ゞゞゞけゞゞゞゞるもつるきをるくゞけゞ

久米の奴

冬菜の女
ちゑ

一平

お梅
久米之丞

由利の八郎

栄久堂梓行新舊稗史目録

菊寿童霞盃　初編より　山東庵京山作　七編迄　香蝶楼國貞画

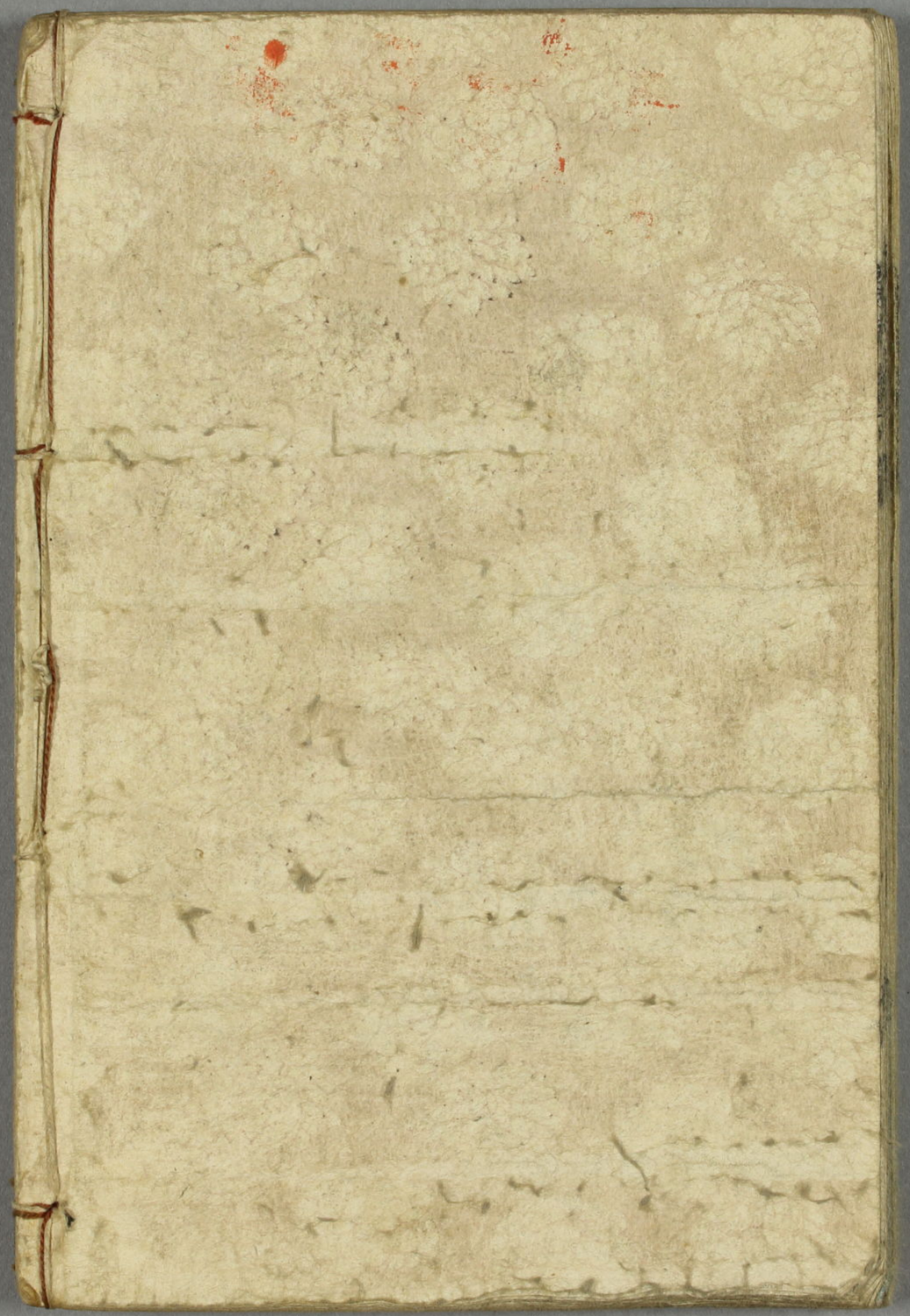
東海道五十三驛　初編より　鶴屋南北作　五編迄　歌川國芳画

三國志画傳　初編より　十返舍一九作　十編迄　歌川國安画

加々見山旧錦繪　全六冊　墨川亭雪麿作　歌川豊國画

國姓爺合戰　全六冊　墨川亭雪麿作　歌川國虎画

御誂染遠山鹿子　六編揃　柳亭種彦作　香蝶楼國貞画

俗に同の字美艶仙女香一包　四十銭　あくまで黒油美女香　江戸京橋南傳馬町三丁目坂本氏

榮久堂　江戸より町親仁橋角　山本平吉販